

# 認知機能を自分で知ろう

## 認知機能セルフチェッカーで認知症予防へ



65歳以上の4人に1人が認知症、または予備軍  
厚生労働省の調査データ(2015年発表)によると、65歳以上で認知症を発症している人は約462万人(2012年時点)にのぼり、認知症の前段階と言われる「軽度認知障害(MCI)」を含めると、65歳以上の4人に1人が認知症あるいはその予備軍であることが明らかになりました。

今後も、患者数は加速度的に増加すると試算されており、認知症予防は、国をあげて取り組まなければならない大きな課題の一つとなっています。

### 認知症予防のカギは

#### 「MCI(軽度認知障害)の早期発見」

認知症(代表例:アルツハイマー型認知症)の進行は非常に遅く、10~20年かけて徐々に進行していきます。また多くの場合、認知症はいちど発症をすると完治させるのが難しいのが現状です。

近年、「MCI(軽度認知障害)」という言葉が特に注目されています。認知症を発症する前段階を指し、認知機能に若干の衰えがあるものの、日常生活にはほとんど影響のない状態と定義されています。このMCIをそのまま放置すると、5年後にはおよそ4割の方が「認知症」へ進行すると言われ、逆にMCI段階で対策(生活習慣の改善等)を行うと、14~44%の方が健常な状態まで回復したという研究報告があります。

認知症は治療が難しいからこそ、健康な時から定期的に自分自身の認知機能を把握し、万が一認知機能に低下がみられた場合でも、早期に適切な対策をとることが大切です。

### 認知症セルフチェッカーでリスク評価

『認知機能セルフチェッカー』は、あなたの「視線の動き」から認知機能の状態を把握することができる次世代型の認知機能検査サービスです。検査時間はわずか5分程度で、検査結果も当日中に確認できます。最先端の「VR」、「視線追跡技術」を利用して測定を行うのでゲームのような感覚で検査を行うことができます。中高年層の健康な方たちを対象に行っていますので、認知症予防対策を行いたい方、脳機能を健康的に維持していきたい方、まずは簡易検査を試してみたい方など気軽にお申し込みください。

認知症セルフチェッカー ¥3,300(税込)

検査の申し込みは健診センターまで  
TEL: 0146-42-0701



# Inkar - インカラ - vol.57



## -TOPICS-

院長の独り言  
新しい仲間を迎えて  
杉先生が着任されました  
認知機能を自分で知ろう

医療法人 徳洲会 日高徳洲会病院  
〒056-0005 北海道日高郡新ひだか町静内こうせい町1丁目10番27号  
☎ 0146-42-0701

# 院長の独り言

## 介護難民を生まない対策を

日高徳洲会病院には療養病床が89床あります。療養病床に入院する患者さんにはその病状に応じて医療区分1から3に分けられます。区分2と3はある程度病状が重い患者さんで（病状によって当てはまるか当てはまらないかは厳格に決められています）、当院では主に「あやめ病棟」に入っています。区分1に分類される比較的病状の軽い患者さんは「さくら病棟」に入っています。国は主に区分1の患者さんは治療のために入院する必要のない「社会的入院」だと決めつけて、病院ではなく介護施設に入所するかご自宅に帰ることにして、大幅に療養病床を減らそうとしています。

当院でも「さくら病棟」をこのままの形で維持できなくなりましたので、2024年度の「回復期リハビリテーション病床」への衣替えを検討しています。そうなりますと、いろいろな病気で当院に入院することになっても、急性期の治療が終わったあとで、「回復期リハビリテーション病床」か、区分2,3の「療養病床」のいずれかに移ることができない患者さん、例えば、病状は軽いが自宅で介護することが難しいとか、入院前は一人暮らしだったが退院後に一人暮らしは難しいなどといった事情で入院を続けることが不可能になります。



このような方々は「介護難民」と呼ばれます。団塊の世代が75歳以上の後期高齢者（総数が800万人）

になる2025年には、首都圏だけに限ってみても約13万人が介護難民になると推測されています。昔は親の介護は家族（家庭）の問題とされてきましたので、国は積極的に介入しませんでしたし、財政難から公的な介護施設を閉鎖したりしてきました。しかし、ここから先は、介護は国や自治体の責任です。当院が立地している新ひだか町や隣接する新冠町でも、介護は少なくとも民間病院に任せるようなことではありません。施設をすぐに充足できないのであれば、公的病院がその受け皿になるべきです。そして、行き場のなくなりそうな患者さんの受け入れ窓口を自治体は早急に整備しなければなりません。当たり前ですが、自治体は住民を守るためにあります。これから急激に増加する「介護難民」や「難民予備軍」に対する対策は、自治体の最優先事項です。よろしくお願いいたします。



日曜日・祝日も

面会いただけるようになりました

4月より日曜日・祝日の面会が可能となりました。面会を希望される方は前日までに必ず電話でお申し込みください。

(新型コロナウイルスなどの感染状況によってはお断りする場合があります)



## 新しい仲間を迎えて

15名のフレッシュな職員が入職し、新しい風を吹き込んでくれます

### 入職式を行いました

4月1日(月)に2024年度の入職式を実施しました。今年度は、看護師7名、リハビリ4名、薬剤師3名、保育士1名の合計15名が入職しました。

新型コロナウイルスの流行に伴い、ここ数年は感染対策を行いながらの簡易的な入職式でしたが、今年に入職式後の懇親会も開催され、美味しい食事をとりながら楽しい時間を過ごすことができました。

北海道外からも多くの仲間が加わり、最初はみんな緊張した様子でしたが、懇親会では会話も盛り上がりすっかり打ち解けた様子でした。翌日から研修が始まり、それぞれが現場に入っていきます。どうか温かく見守っていただきますようお願いいたします。



## 杉先生が着任されました



杉 貴文 医師

4月よりリハビリテーション医として着任しました杉です。

初期研修を経て、急性期から生活期までのリハビリ診療に関わってきました。特に嚥下障害や脳卒中後の麻痺治療を専門としています。

この度、東洋医学と総合診療の知識を深め、それをリハビリテーションに活かすことで、より幅広い診療を提供できるよう頑張りたいと思います。また、地域住民の皆様にもリハビリテーションの重要性について啓蒙していきたいと思っております。

ここでの生活と仕事に期待を寄せつつ、皆様と協力して地域医療に貢献できることを楽しみにしています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。